

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	#REF!
施設名	#REF!
施設所在地	#REF!
法人名	#REF!

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然環境を生かしたおしごと（モンテッソーリ活動）

<テーマの設定理由>

四方を山に囲まれ広い園庭には桜の木があり木の下で花見給食をしたり、暑さを凌いだりでき、近隣の沢井遊歩道を散歩するとたくさんの自然物に触れることができる三田保育園。子どもが散歩で摘んできた花をモンテッソーリ教具の絵カードと並べてみていたところから、モンテッソーリ教具を使い、もっと自然物への関心が深まる活動をしたいと思い「とうきょうすくわくプログラム」のテーマにした。

2. 活動スケジュール

・ビニール袋の手提げを持って散歩に出かける。・幼児は写真に撮った山野草などの名を図鑑で調べる。パソコンから画像を出す。
・モンテッソーリ教師による職員研修で自然と教具のつながりについて学ぶ。
・木の実や落ち葉を集め教具と並べて色のグラデーションや長さなどを比べてみる。・自然物を使いしめ縄を作ったり長さを図ってみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・園周辺や多摩川沿いの遊歩道に季節ごとに異年齢で散歩に出かける。
教具の使い方を職員が知り自然活動につなげる関りができるようにモンテッソーリ研修を行う。
・パソコンで懇談会資料を作成する。
子どもが自由に自然物を集めて遊べるよう袋、お散歩バック、網、定規、自然物図鑑、モンテッソーリ教具、園庭にテーブル等を用意して設定する。

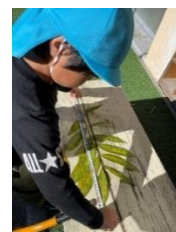
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①乳児は園庭で拾った葉や木の実、石などを袋に集める。
- ②ビニールバックを持って散歩に出かけ好きな自然物を集めて園に持ち帰り見せ合う。幼児は散歩中に見る花の名前に興味を持ち図鑑で調べパソコンから写真を出し絵カード作り
- ③職員はモンテッソーリ教師から教具の提供や自然活動への導入等の研修を受ける。 ④
 幼児は日頃から教具の使い方を知り、色や大きさ、形などに興味関心を持つ。教具葉のタンスで葉の形の名前を知る。教具色板で色の違いを知る。
- ⑤幼児は教具葉のタンスのカードを持って散歩に出かけカードと同じ形の葉を集める。教具と見比べてみたり色の違いやグラデーション(濃い、薄い)に並べてみる。 ⑥蔓や木の実、花などでリースを作り飾る。等身大の木に葉をつけるなど制作活動。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乳児が園庭に出ると木の実や落ち葉、石などを拾い「ママにお土産」と持ってくるが増え、自由にビニール袋を使えるようにしたり散歩バックを用意した。絵本を見ても「この花あったね」などと現体験とつながる言葉が出てきて保育者との共感が増えた。幼児は散歩中に見た植物の名前を図鑑で調べ、同法人園交流で訪れる立川の子たちに見せたいと絵カードを作り壁に貼った。落ち葉を集めた時「紐で結んでみる？」という保育者の一言で花束にしたり、「イチョウの葉もよく見ると違うね」と話すと、基本の葉を中央に置きそれより色が濃い葉、薄い葉とグラデーションに並べたりする子もいた。モンテッソーリ教具色板のおしごとを葉で模倣していたようだった。葉を写し絵にしたり、自然物の蔓を巻いて木の実や花を飾りリースを作ることが流行した。3歳児は年長児の作るのを見て教えてもらいながら作っていた。自然物の制作を地域の文化祭に出展すると地域の方々から「三田保育園らしい作品が良かった」という言葉を頂き保育者も嬉しい気持ちになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

1月末、テーマ「保育と自然をつなぐ」園内研修事例発表をパワーポイントにて幼児担任が行った。6月～1月までの子供の活動を映像を見ながら職員間で振り返ると、保育者が意図を明確にして保育活動を行うことが、子どもたちの興味や関心を広げることだと気づくことができた。日頃のモンテッソーリのおしごとが土台となり、わが園の自然の豊かさを保育者が生かして楽しく伝えることが、子どもたちの豊かな感性や知的好奇心を伸ばすことにも繋がった。職員研修で得た「子ども一人ひとりのレスンプラン」を指針にしたことで、個々の成長の機会をバランスよく提供できた。自分の心と体を思い通りに使い、豊かな語彙力、創造力で表現できる人を育てるお手伝いができる保育の仕事に携える喜びを保育者は感じる事ができた。